



## 雑木林とは

雑木(いろいろな木)が生えている林という意味ですが、一般的にはコナラ、クヌギなどの落葉広葉樹から成り、昔から人が手入れしてきた、燃料のまきや木炭をつくるための林(薪炭林とも呼ぶ)を指します。

## 雑木林は人間の暮らしを支えていた

昔、多くの人が農業を営んでいました。雑木林は屋敷の近くに田畑と一緒にあって、生活に必要なまきや木炭の燃料だけでなく、農作物の栽培に必要な肥料などを与えてくれました。

## 雑木林はかつては燃料や肥料の材料を生産

伐採(木を切ること)したコナラ、クヌギなどの幹や枝は燃料のまきや木炭をつくるための材料。落ち葉は腐葉土という天然の肥料をつくるための材料で落ち葉かきして落ち葉囲いの中に集められていました。

## 雑木林の再生利用

コナラ、クヌギなどは切り株から新しい芽がでます。この中から勢いのある芽を選び新しい幹に育てます。この新しい芽から木を育て伐採をくり返す方法を萌芽更新と呼び、15~20年周期で行われていました。

## 雑木林の中は明るくすっきり

萌芽更新したり、落ち葉かきしたり、下草が(林の草かり)して人が手入れ大切に守っている雑木林は、林床(林の地表面)まで陽の光が入り春にはさまざまな草花が芽生えます。

## 雑木林は昆虫たちにとって暮らしやすい

手入れされた雑木林にはさまざまな昆虫が暮らしています。その代表はカブトムシ。メスが好んで産卵する場所は落ち葉囲いの中。幼虫はその中で長い間過ごし腐葉土を食べて大きくなり、成虫もコナラ、クヌギなどの樹液(木の栄養分が木の中から外へあふれたもの)が大好きです。

## 雑木林の新しい役割

時代の変化とともに、燃料はまきや木炭から石油やガスなどに変わり、肥料も化学肥料が簡単に手に入るようになり、人の暮らしと雑木林のつながりは失われてきました。その一方で、雑木林を含めた緑の自然環境が人々の憩い・遊び・学びの場として活用され始めています。

## からきだの道の雑木林

からきだの道は多摩ニュータウンの開発時、唐木田地区の造成によりできた斜面への植樹と残された緑の整備により再生された緑地です。山を崩し谷を埋める大規模な造成により屋敷や田畑とともに緑の大半を失いましたが、開発以前に暮らしていた人々が「やま」と呼んでいた雑木山の名残りが感じられる雑木林がからきだの道にあります。その一つが「かぶとむしの林」です。